



2012年パラグライディング日本選手権 IN 南砺より。

2013年を迎えて

新しい年を迎え、フライヤーの皆さんはどのような目標を胸に置いたのでしょうか。今年こそ1時間以上のソアリングをする、クロスカンントリー技能証を手にする、大会で優勝する……それぞれの目標を安全に楽しく達成されるよう応援しています。

JHFは今年、公益社団法人に移行して初めて新規約の下での役員改選を迎えます。あと半年の任期を全うしようと、現役員は各々の担当する連盟事業にエネルギーを注いでいます。理事として監事としての今年の抱負をひとつずつ述べてもらいましょう。



会長 内田孝也

2013年はJHFのフライヤー登録有効者数の減少を止め、再び増加に転じさせる年にしたいと思います。そのためにも、今年こそ事故ゼロを実現したいものです。

有効登録者数は8,000人台にまで減り続けてきましたが、昨年1年間の新規（更新）登録者数では、対前年で上向きに転じています。

重要な課題は、若い世代にアピールし興味を喚起することです。施策とし

て、視覚的にパラグライディングやハンググライディングの魅力を伝える試みをしますが、マスコミでは事件や事故などマイナスなニュースばかりが注目されます。若者が、怖そうだからとしり込みするようなものであって良い筈はありません。

事故は避けられないものだから保険でカバーする、という現実を認めるのではなく、事故をゼロにするための努力を共にしていきましょう。財務の健全化を実現できたJHFは、これからも振興活動により力を入れていきます。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

空はひとつ

東日本大震災からもうすぐ2年。さまざまな被害に遭われた方々が普通の暮らしを取り戻せるよう、全国の仲間が気持ちをひとつに応援しています。（4ページをご覧ください。）

**副会長 安田英二郎**

新年を迎えるたびに気持ちを入れ換えることができるのは日本のいいところ。今年こそ、経済もスカイスポーツも風向きが変わりますように。

私たちも、フライヤー、教員、スクールの一人一人が普及のためにできることを実行していきましょう。そして、スカイスポーツ振興のためにJHFができることがありましたら、ぜひ積極的にご提案ください。

**理事 荒井健雄**

本年も会員を増やすことに全力を挙げて、提案、実行していきたいと思えます。フライヤーの皆様が安全に楽しく飛べる環境についても考えていきます。どうぞよろしくお願いします。

**理事 大澤 豊**

5チャンネル空中使用のできるデジタル無線機の普及活動を、引き続き推進していきます。都道府県連盟、各団体、個人で行っているハンググライディング・パラグライディング普及事業を支援、協力していきます。また、競技の安全、公平な運営ができるように協力し、競技に興味がある方が参加しやすい環境も考えたいと思えます。

**理事 菊池守男**

フライヤーの皆様が安全に飛ぶため、事故を減らすために、安全啓蒙について考えていきます。今年こそ事故ゼロでありますように。

**理事 工藤修二**

皆様、新年はどう過ごされましたでしょうか？ 寒空を飛んだ方もいっぱいいるかと思えます。こたつに入って熱燗って方も。

今年の抱負ですが、特に新しいものではなくフライヤー人口増加に向けて何ができるか考えて実行していくのみで

す。昨年は各地に行ってJHFへの要望、苦情(^^)をいっぱいいただきました。これを継続していくつもりです。

**理事 山口淳一**

補助動力教本の作成の協力をします。都道府県連盟の支援、普及活動の推進を考えていきます。皆様のご意見、ご要望も事務局までお寄せください。よろしくお願いします。

**監事 市川 孝**

監事の職務は、理事の職務の執行を監査し、会計状況をチェックすること

ですが、公益社団法人となり、従来にも増した権限が与えられることとなって、その職責の重要さを痛感しています。

JHFの活動については、フライヤー会員の増加が重要と考えており、そのための普及・振興事業は広報担当理事が尽力しております。弊職としても、何よりもマスメディアで取り上げられる効果は大きいと考え、今回のハンググライディング世界選手権のプレスリリースを、体協の記者クラブに配布してまいりました。記事など取り上げられることは少ないでしょうが、こうした地道な活動も必要となります。皆さまからのアドバイスをいただければ幸いです。

追悼

2003年、平成15年度より当連盟の監事をつとめてこられた對馬和也さんが、昨年12月4日、虚血性心疾患のため急逝されました。享年66歳。ご冥福をお祈りし、謹んでご報告します。

對馬さん、ありがとう。

對馬和也さん、全く突然のお別れで信じられません。いまでも、独特の語り口で意見を述べられる声が聞こえてくる気がします……「こんなはずじゃなかったわけ」と。

對馬さんは、公認会計士として主に法人会計の経験が豊富で、JHFの監事として適任でした。特に、公益社団法人移行にあたっては、監事が公認会計士であることは、たいへん有効であったと思います。



空の仲間のために活躍した對馬監事。

会計士としての對馬さんの指導姿勢には、時に監督官庁と「闘う」という勇ましい面があり、そこは少し心配でしたが、JHFが保有資産への過干渉を受けることがないように新法人会計法に則った決算方針を出してくださいました。

對馬さんは尾神岳のパラグライダークラブで活動しており、無理のない条件を選んでフライトを楽しみ、「空の仲間に出会えて良かった、素晴らしい世界に加われた」といつも言っていました。最近も、エリアの近くの自治体の仕事を引き受け、飛ぶことはなくても尾神岳に通われていたようです。

新しい法人法に則った決算事例は、ここ数年でやっと積み上がってきたところで、初期の解釈からより柔軟性の高い決算方針への移行を示唆されていただけに、對馬監事を喪ったことは、JHFにとってたいへんな打撃であり、とても残念です。

對馬さん、これまで本当にありがとうございました。これから、残された我々で何とか決算をこなしていきたいと思いますので、天から見守ってください。

JHF会長 内田孝也

役員の任期満了に伴う改選

JHF役員選任実行委員会

本年6月の定時総会で、現任役員の任期満了に伴う改選が行われます。

JHFの理事ならびに監事の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められています。2011年の定時総会で行われた役員選任は、その年の4月に公益社団法人の認定がされたばかりであり、旧役員選挙規約を新定款に沿うよう読み替えて実施されましたが、本年の役員選任は、2012年6月定時総会で承認された新しいJHF役員選任規約に基づいて行われます。

以下、役員の選任について、公益認定前後の違いを含めて説明します。

1. 立候補資格者

公益認定前の旧定款では、第13条3項で「この法人の事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならない」とありましたが、新定款ではこの条項が無くなりました。

従って、立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ住民票所在地の都道府県連盟（JHF正会員）に所属し推薦を受けた方なら誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

ただし、上位の法律（公益認定法）では、公益法人の事業を行うにあたり、役員・正会員・職員に特別な利益を与えることを禁じる旨が明文化されており、自己に有利な利益誘導があれば罰せられます。また、法に違反し刑に処せられている者や、執行を終えても一定期間を経過しない者等は役員になれません。

2. 選任方法

従来と大きな変化はありませんが、選任のための役員立候補者の募集活動や、選任事務は「役員選任実行委員会」（以下、実行委員会）が実行します。

役員の選任は、概ね以下のスケジュールで行われます。

◇役員選任議題（従来の役員選挙に相当）のある総会の約10週間前に実行委員会が選任公示を行い、選任に関する資料を正会員に配布。同時にJHFウェブサイトにも関係資料を掲載します。
◇総会の約6週間前に立候補受付を締め切ります。

◇総会の約4週間前に立候補者の公示が行われます。

総会当日は、役員選任議題の場で、正会員が投票により立候補者それぞれに選任の決議を行います。開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されますが「理事のうちいずれか1名とその親族その他特別の関係ある者の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」「公益法人を除くこの法人以外の団体の理事又は使用人、その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない」という条項に抵触する場合、該当立候補者の中から得票上位者を役員とします。

3. その他

(1) JHF組織

JHFは正会員とフライヤー会員が構成員となり（下図）公益認定時に公益認定等委員会へ届け出た「公益に関わる事業で、かつ不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業」を行います。

JHFの事業や規約等は、法律の範囲で正会員によって構成される「JHF総会」が決定します。総会によって選任されたJHF理事は「理事会」の一員として法と定款および総会決議に基づき、責任を持って業務を執行します。

また、総会で選任されたJHF監事は、法・定款・総会決議に基づいたJHF活動が行われているかを監査します。

(2) 理事の主な役割

- 定時総会・臨時総会の招集を行う。
- 総会議題議案の決定と正会員への通知を行う。
- JHF事業の業務執行と経営統治権限

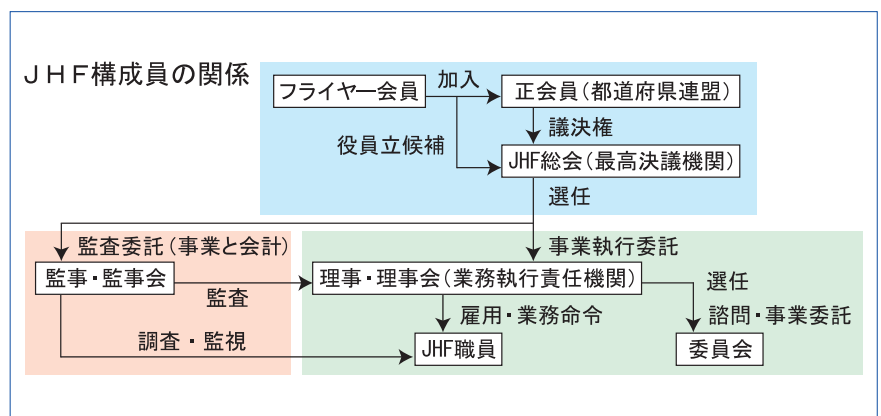
による職務を忠実に執行する。

- JHF事業に関わる、理事の特別な利益取引は禁止されている。
- JHFに損害が生じる恐れのある時は正会員に報告する義務がある。
- 代表理事会長の選定および解職を行う。
- 理事の行為によるJHF損害への賠償責任を負う。
- JHF会員の承認権がある。
- 委員会の設置および委員の選任権がある。
- 収支予算・事業計画作成権があり、会長が作成し理事会が承認する。
- (3) 監事の主な役割

- 理事の職務が適正に執行されているかの監査を行う権限と、監査報告を作成する義務がある。
- JHF業務や財産の状況を調査する権限を持つ。
- 理事に不正行為の恐れがある時は理事会に報告しなくてはならない。
- 理事会に出席し必要ある時には意見を述べなければならない。
- 理事不正行為にかかわる理事会招集請求権を持つ。
- 総会議題議案や資料を調査しなければならない。
- 理事の行為差止めの権限がある。

以上をご理解いただいた上で、JHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補してください。

役員選任のスケジュール等は、JHFウェブサイト上でお知らせしていきます。お問い合わせはJHF事務局まで。



JHFの動き

各委員会が連携して 連盟事業を推進しています

JHF事業実施の推進役を担うのは、各委員会です。2012年には担当委員会の頑張りによって、主なところでは次の事業を行ってきました。

□第1回JHF映像コンテストを開催

ハンググライダー、パラグライダーをイメージアップし、空を飛ぶ楽しみを伝えられる動画、見た人が「いいな～やってみたい～」と感じる映像を募集しました。

□第2回JHFフォトコンテストを開催

ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した作品を募集。できるだけ多くの人々の目に触れるよう普及活動に使用しています。

□模範演技DVDの頒布を開始

JHFパラグライディング教本の課程ごとの模範飛行映像DVDが完成、頒布を始めました。

□SIVトレーニング開催

安全性委員会主催で、9月7日～9日に長野県木崎湖にて実施しました。

2012年度の最後の四半期も各委員会は連携して活動していきます。現在検討中の主な課題は下記のとおりです。これらについての決定や進捗については、JHFウェブサイト等でお知らせしていきます。

□パラグライディング教本の改訂

□ハンググライディング教本の改訂

□補助動力教本（副読本）の作成

□SIVトレーナー認定証の検討

□教員マニュアルの検討

□全国フライトエリアのWEB上でのマップ化

□レスキューパラシュートリパック認定証の規程、及び学科問題の見直し

□安全セミナーパッケージプログラムの作成

□安全性委員会内規の制定

□ハンググライディング整備票の運用について

□FAIアキュラシー部門の国際技能記章新設に伴うJHFの規程の改定

委員長合同会議で 来年度事業計画を検討

この2月にJHF常設委員会の委員長

を招集、委員長合同会議を行います。

この会議で各委員会の2013年度事業計画と予算について検討・調整し、JHFの来年度事業の骨組を作ります。理事会は骨組を検討し、来年度事業計画を作成。6月の総会で正会員（都道府県連盟）に報告して、来年度事業が正式に決定します。

役員選任実行委員に 元理事の荒井稔さん

2013年6月の役員改選に向けて役員選任実行委員を募集しましたが、定員（3名以上5名以下）に満たなかったため引き続き募集、新たに神奈川県荒井稔さんが委員に決まりました。

荒井さんは2003年・2004年にJHF理事として活躍。その実績から、役員選任実行委員長に選ばれました。

役員改選まであと半年、役員選任実行委員会の活動が始まりました。

ハングパラ振興委員会から お知らせ

フライヤーの皆さん、初飛びは無事済まされましたでしょうか。

ハングパラ振興委員会では、パラグライディング普及、振興のため、動画、リーフレットを作成中です。ウェブサイトからもダウンロードが可能となります。完成しましたらJHFウェブサイト等でご案内しますので、ぜひ積極的なご活用をお願いします。

イベント、体験会、大会会場での配布資料、貸出する展示資料等の作成と、来期に向けてイベント運営運用マニュアルを作成する予定です。

委員一同、今年もフライヤー増加、スカイスポーツの認知向上に努めてまいります。

CIVL 日本代表が FAI 年次総会で承認されました

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）日本代表委員が再任されました。2012年10月19日・20日にトルコのアンタヤで開催されたFAI年次総会において、JHFが推薦していた岡芳樹、内田孝也両氏が前年度に続き、

日本代表委員（デレゲート）として承認されたもの。代表委員の任期は次のFAI総会が開催される2013年10月4日までです。

CIVLは、FAIの合計14ある航空スポーツ委員会の一つで、ハンググライディングとパラグライディングの競技ルールの国際的基準「FAIスポートィングコード・セクション7」を規定、世界選手権の開催決定、国際技能証規程の制定などを行い、安全啓蒙活動なども行っています。

2013年CIVL総会はスイスのローザンヌで開催。2月16日・17日が全体会議で、それに先立つ13日から15日に各ワーキンググループなどの会議が行われ、正委員の岡氏が一般財団法人日本航空協会から派遣されます。

被災地復興応援の義援金を こどもたちのために

JHFは2011年春から、東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」を展開してきました。全国の皆さんから寄せられた義援金は、2012年12月14日時点で合計87件2,998,746円になりました。皆さんのご協力に感謝します。

復興とひとくちにいても、被災地の方々が普通の暮らしを取り戻すには、長い時間と莫大な費用がかかります。今後も義援金を募っていきますので、さらに多くの方にご協力いただければ幸いです。

昨年11月以降にお寄せいただいた75,755円は、一人でも多くのこどもが「普通の」教育やケアを受けられるよう、東日本大震災遺児への貸与奨学金、心のケアプログラム開催費などへの寄付「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」に託しました。

□義援金振込み先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード 0005）
巣鴨支店（店番号 770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

コウエキシャダンホウジンニホンハングパラグライディングレンメイ

県連だより

福島県フライヤー連盟

平成24年県連活動の報告

平成24年の県連事業も無事終了しました。4月の総会から8ヶ月間の短い期間でしたが、内容の濃い県連事業を行うことができました。

県連主催の大会（羽山・猪苗代・あぶくま・三ノ倉）は、すべて成立。それも4大会ともに素晴らしいコンディションに恵まれ、県内外のフライヤーに福島の空を楽しんでいただけたと思います。

特に、『ふくしまを応援しよう！』とフライヤー同士が声を掛け合い、4大

会すべてにエントリーしてくださった方が多く、福島県連として、とても嬉しいできごとでした。（写真は羽山でのつつじカップです。）

さらに、福島県復興事業の『あなたも鳥になれる・・・』パラグライダー



体験会では、県連会員の協力もあり、5月ふあふ体験、6月ショートフライト、7月タンデムと進み、8月には、7名がA級技能証を取得。新しいメンバーも増え、活気ある県連活動になりました。

他にも7月にNP、P学科試験。11月には、XC学科試験を開催。また、県連会員を対象にした安全講習会を開催しました。

11月23日の理事会をもって、福島県連の平成24年の事業を終了しました。平成25年は、4月21日県連総会より事業開始になります。

【訃報】

羽山エリアでスクール及びエリア管理を行っていたウイングイット校長・浅子智由氏が4月に他界しました。福島県フライヤー連盟副会長として、長年に渡り、尽力なされた故人の冥福をお祈りします。

賛助会員から

エア・カッシーがSIVトレーニングを行います

福岡聖子SIVトレーニングを2013年ゴールデンウィークにフランスのアヌシー湖において開催します。SIV（セーフティートレーニング）、アクロトレーニングコースは少人数制で一人一人のレベルにあった個人トレーニングなので、どなたでも参加することができます。また、湖上トレーニングだけでなく、アヌシーでのフリーフライト、クロスカントリーフライトも行います。講師はENのテストパイロットを

務める福岡聖子、テイクオフでのサポートは文字英彰が行い、全て日本語での講習です。昨年導入されたGフォーストレーナーも使用し効率的なレッスンです。

定員：7名

日程：4月27日スイス・ジュネーブ空港に集合 4月28日～5月4日フライトトレーニング 5月5日ジュネーブ空港から出発

お問い合わせ等はエア・カッシーの文字まで。TEL.090-3067-6240

E-mail：info@airkassy.com



広大なアヌシーエリアのテイクオフ。



講師はアヌシーを拠点とする福岡聖子。

JHFカレンダーで楽しい1年を

2013年JHFカレンダーができました。サイズはA5。月々の写真は、第2回JHFフォトコンテスト入賞作品で、楽しいフライトの写真を毎日目にすることができます。

ご希望の方には、送料込み1冊500円でお送りします。以下の項目をご記入の上JHF事務局にEメールかFAXにてご連絡ください。

・氏名 ・フライヤー登録No.

- ・EメールアドレスかFAX番号
- ・電話番号（携帯可） ・郵便番号
- ・住所 ・注文セット数

ご注文いただいた方には、振込先等をご案内します。お振込の確認をしてから発送しますのでご了承ください。また、数量限定のため、売り切れの節はご容赦ください。

JHF登録の各スクールでもお求めいただけます。



冬期フライトの注意点と対策

ゼロパラグライダースクール
片岡 義夫

地球温暖化が叫ばれつつも、日本の冬はやっぱり寒いし、風は冷たい。異常気象で、今まで以上に寒さの厳しい日が多いくらいだ。

フライト中は当然、地上にいるときより過酷な状態になる。

■高度・風と温度の関係

基本的に、100m高度が上がるごとに気温は1℃下がり、風速が1m/s増すごとに体感温度は1℃下がるといわれる。たとえば、1000m上空を36km/h (10m/s) で飛行していると、地上の風の当たらないところより20℃も寒く感じる。

それでも「冬は寒いから飛ばない!」という人は少数派だろう。そこで、冬期フライトの危険性や注意点についてその解決策や対応策を考えてみたい。

弊害を考慮して寒さ対策を

まず、寒さが人に与える影響について、わかりやすく最悪なのは、凍傷や低体温症（ハイポサーミア）等の機能障害だ。「こんなのは起こる可能性があるというだけで、特別な冒険フライトでもない限り起こらない」と思われがちだが、通常のフライトでも低体温症で病院に搬送されたり、耳が凍傷になったり、裸眼で飛んでいて涙が凍ったためか（原因不明）ランディングア

プローチ時に目が見えなくなった実例もある。そこまで顕著でなくとも、寒さは運動能力を低下させる。また、不安な気持ちが大きくなる傾向があることから、思考能力や判断力を鈍らせることがある。

これらの対応策は

- 1 ウェア、グローブ等を厚手のものにする。
- 2 ウェア、グローブ等を重ね着する。
- 3 体や手をときどき動かす。
- 4 ネックウォーマー、フェイスマスクを着用する。
- 5 サングラスをする。
- 6 靴も厚手のものにする。
- 7 カイロを使ったり、ヒーター機能が付いたウェアやグローブを使用する。

等々が考えられる。しかし、気を付けなければ、逆にこれらによる弊害もある。たとえば1・2をやり過ぎると、着膨れで動きにくくなり、別の意味で運動能力が低下してしまう。

4は、首の動きを制約することや、視野を狭めて他機警戒等に支障をきたす場合がある。また、1・2によってハーネスが窮屈になり長時間のフライトがしんどくなったり、4によってヘルメットがきつくなり頭が痛くなることさえある。

それに6も加われば、テイクオフからフライト姿勢への移行、フライト姿

勢からランディング姿勢への移行が難しくなり、ハンググライダーのハーネスやパラグライダーのボッドハーネスでは、足の出し入れがしにくくなる。

目の保護のためには冬でもサングラスをすべきだが、レンズの色が濃く視界がうす暗くなってしまうものや、フェイスマスクの影響ですぐ曇ってしまうものもある。

7も効果的だが、使い方を間違えると、温まり過ぎて多量に発汗し、その汗が体温を奪う「汗冷え」や低温火傷の危険性がある。

つまり、寒さ対策は、これらの弊害が出ないようにすることが大切だ。

まず、あまり厚着、重ね着に頼り過ぎず、高品質・高機能素材のウェア、グローブ、靴を着用する。加えて、アンダーウェアは保温性だけでなく吸汗性、透湿性、速乾性に優れたものを、またオーバーウェアは防風性が高く、かつサイズの的にもデザイン的にも動きやすいものを選び、これらを効率よく組み合わせることが大切だ。

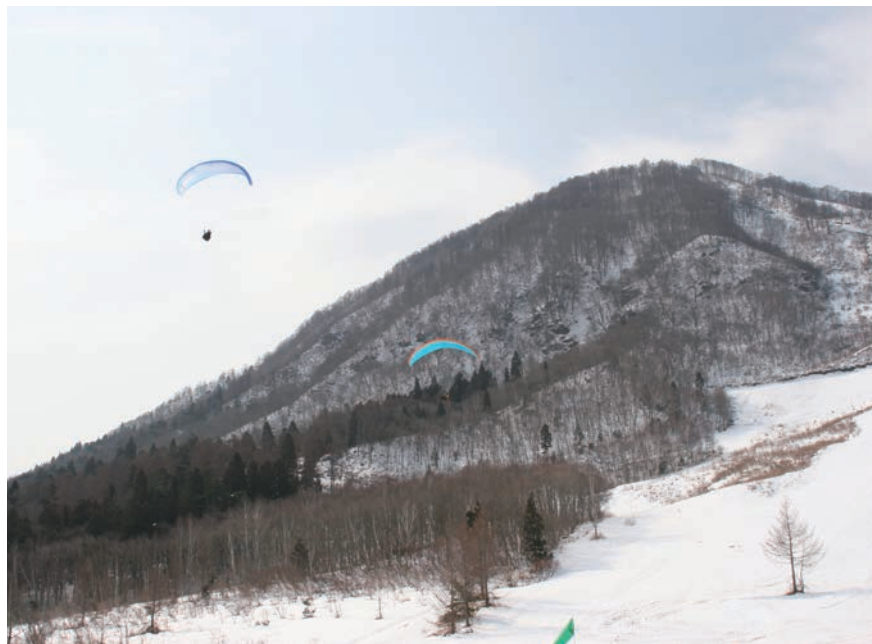
フェイスマスクも、鼻からの息が上に行かない構造でサングラスを曇らせないものや、ヘルメットのかぶり心地を損なわないように頭頂部を薄手にしてあるものをおすすめだ。

ウェアの組み合わせを工夫しても、どうしても着膨れしてしまう場合は、ハーネス自体の調整も必要になる。

また、冬は強風で風待ちすることが多くなる。ずっと寒風にさらされていると体力や気力が奪われ、注意力が散漫になりやすい。当然、気象の変化は見ておかないといけないが、できるだけ寒くない場所でウェイトイングして、ときどきストレッチするなど体を動かしておく。そして、飛べる条件になったときには、焦らず、いつも以上に慎重にプレフライトチェックをしなければならない。

手の防寒

冬期のフライトで最も重要となるのは手の防寒だろう。手（指先）の冷たさに耐えられなくなって降りてしまうフライヤーは多い。特にパラグライ



寒さのなかでも安全に余裕を持ってフライトを楽しむために、十二分な備えを。

ダーは通常、手が心臓より上に位置するので、血行が悪くなり機能障害に陥りやすい。手首、腕、体（胴）は飛行中に多少動かすが、指はブレイクコードのトグル／ベースバーを握ったままほとんど動かさないのでなおさらだ。

しかし、グローブを厚手にしたり重ねて着けると、握りが悪くなるだけでなく、細かい作業ができなくなる。パリオやGPSの設定変更や調整、無線機の送信、レスキューパラシュートの引き出し……等々、ある程度指先が機能しないと、正確にはできない。

ハンググライダーの場合、握りの悪いグローブだとアップライトからベースバーへの持ち替え（もちろんその逆も）、アップライトでのホールド時や微妙なバードプレッシャーを感じての操作等が難しくなる。

パラグライダーではもっと影響が大きく、テイクオフ時のAライザーの握りやブレイク操作がしにくいだけでなく、AストールやBストール、ビッグイヤーの際にラインをつかみきれないことがあり、別のラインやライザーを引いてしまう危険性さえある。

この問題の解決策はなかなか難しいが、ときどき手を握ったり開いたりして血行をよくすること（手以外もときどき動かして体が固まらないようにする）は重要だし、飛ぶ前にワセリンや保湿保温クリームを塗りながらマッサージするのもいい。あとは、保温性に優れ、できるだけ薄く、握りのいいグローブを見つけることに尽きる。たくさんさんの情報を集めて、できれば実際に試してみるのが確実だ。

気象について

冬の空気は冷たいだけでなく乾燥している。このことから冬は空気密度が高い＝重い空気になる。

■湿度と空気密度の関係

水蒸気は水（H₂O）が気化したものなので、空気（N、CO₂、Oなど）より軽い（一番軽い水素Hが2と、空気中で軽い酸素1が結合したのが水なので……）。つまり、水蒸気を多く含んでいる＝湿度の高い湿った空気より、乾燥した空気の方が重くなる。

重い空気はエネルギーが大きいので、

少しの乱気流でも「とられ」や「ゆれ」を起こしやすく、パラグライダーの翼の「つぶれ」も発生しやすい。同じ速度でぶつかられても、小さな子どもと重量級のマツコデラックスでは、受ける衝撃が違うのと同じ原理だ。

また、エネルギーが大きいので、多少遮るものがあったとしても、なかなか弱まったり速度が遅くなったりはしない。つまり、急に強風になる、風向が変化するといったことが起こる（寒冷前線の移動速度が速い理由がこれ）。

一方、熱対流も強くなるので、上空に寒気が入ってくると、低高度では弱い熱エネルギーのサーマルでも、上空に上がっていくと周りとの温度差で急激に上昇率が高くなり、降りられなくなることがある。事例をあげると、最初は遠くのそれほど大きくない雷雲だったのに、あっという間にエリア全体を覆い、飛行中のほとんどのグライダーが見えなくなってしまったこともある。

空気が重くパワーがあるため、結果的にオーバーコントロールになりやすいので、修正等もできるだけ早く適量の操作をすることがよりシビアに求められる。特にハンググライダーのランディング時は、フレアーのタイミングと量に気をつけないと、ロケット（浮き過ぎ）になりやすい。

計器について

最近の計器は改良が重ねられ低温に耐えられるものが多いが、それでも低温状態が長時間続くと、正常に作動しないことがある。

防寒性の高いカバーの装着、多少厚手のグローブでもスイッチを操作しやすいように工夫するのもいいが、計器類に頼り過ぎないことが大切だ。無線誘導がなくても危険を察知できる、また安全に降りられる知識と技術を身につけよう。計器が示す数値だけ見て「この高度、この上昇率なら大丈夫！」と安易に判断しないことだ。

最後に

以上のことは負の連鎖で、たとえば「長いウェイティング→焦って飛ぶ→急に強風、強い上昇→厚手グローブのため思ったように無線発信できない→焦る→パラグライダーならビッグイヤーでほかのラインまで引いて大きく

低体温症（ハイボサーミア）

体の中心の温度が35℃まで下がると低体温症だといわれる。なりやすいのは、高齢者や小児、栄養不足や疲労、水分不足の状態、糖尿病や脳梗塞などの病気がある人、怪我人など。中度でも意識朦朧とする場合もあるので、軽く考えないこと。寒さによる震えは警告のサイン。我慢して飛び続け体を悪くしては元も子もない。潔くランディングして、コーヒー・茶類以外の温かく甘い飲料を。アルコール・煙草は絶対に避ける。

つぶれる／ハンググライダーならフルロックしてもうまくコントロールできずヨーイングが起きる→うまく降下できない→ますます恐怖心が増す……」と悪いほうへどんどんつながっていくので、ひとつひとつしっかり対応していくことが大切だ。

冬期フライトの問題点ばかり書きましたが、これらに注意してしっかり対策を立てれば、冬期ならではの楽しみを満喫できるはず。弱い寒気や乾いた空気はリッジにしてもサーマルにしてもよりよい上昇を生みます。田圃がランディング場のところなど冬しか飛べないエリアもあるし、空気も澄んでいることが多いので、空からの眺めも格別です。春ほど荒れていることも少ないので、新しいグライダーへの乗り換えや初級・中級者のサーマルソアリング等のトレーニングにはいい時期ともいえます。寒さに負けずフライトを楽しんでください。

片岡義夫

KATAOKA Yoshio



1982年にハンググライダーで初フライト。1986年からパラグライダーディング教員として活躍を続け、現在は鳥取県を拠点に指導活動を行う。ゼロパラグライダースクール校長。JHF教員検定員。大阪府フライヤー連盟理事長。





森山政男・中目みどり、接戦を勝ち抜く。

パラグライディング日本選手権 IN 南砺

報告：大会実行委員長 山口 隆文
撮影：山口隆文 小川由希子

2012年10月5日(金)から10月8日(月)まで、富山県南砺市つくばね森林公園内フライトエリアで「パラグライディング日本選手権 IN 南砺」を開催し、2012年の日本選手権者を決定しました。開催にあたり、南砺市ではテイクオフの改修工事やテイクオフ周辺の道路整備をしていただき、地元地区にもご協力をいただきました。地域の全面バックアップに深く感謝申し上げます。

大会運営は獅子吼高原パラグライダーズスクール、となみ野HG・PG安全協議会が協力しあい、各方面のご協力も得てすすめてまいりました。

■10月5日(金) TASK1

開会式終了後、選手は主催者側が用意したマイクロバス、トラック、車にてテイクオフへ移動。朝まで降っていた雨は止み、選手がテイクオフに到着したときには、心地よい晴れ空が広がり、眼下に南砺市の散居村が見渡せ、素晴らしい景色でした。

ウインドグামীが景気良くソアリングするのを見て、条件はさらによくなると判断。PWC等で主流になりつつあるビッグシリンドラーを使い、山沿いを飛んだあと平野部を飛んでジグザグに理休ランディングに戻る、58.2kmの非常にテクニカルなタスクに決定。

11時35分のウインドウオープン

コールとともに選手は続々とテイクオフ。スタートまでに高度を稼ぐべくソアリングを続け、スタート直前には多くの選手が雲底1300mまで上昇していた。12時10分、一斉にスタートした選手は順調に山沿いをフライトしポイントをクリアしていく。競技が進むにつれてコンディションはさらによくなり雲底は1500m付近まで上昇。

しかし、トップ集団が砺波インター付近、平野部へ移動したときに、海風が平野部に入り込み始め、平野部だけは一気に渋いコンディションになってしまった。トップ集団は難しいタスク、コンディションに苦労したが、粘りの飛びを見せた成山選手がトップでゴールに飛び込んだ。続いて、グランドでシリンドラーに入るギリギリ横をソアリングしていたがシリンドラーに入ることなく7kmも流されながら高度を獲得し、再度ポイント通過しギリギリの高度で上山選手がゴール。ゴールはこの2名だけ、他の選手は海風の侵入に悩まされ、平野部で上げきれずランディングとなってしまった。

■10月6日(土) TASK2

天気予報は晴れ時々曇りだったが、朝から曇り空。風は北東の風予報であったが、北風になりそうなので問題ないと判断。天候の好転をねがいテイ

クオフへ移動。ウインドグামীを次々に出すが、ステイすることなくメインランディングへ。しかし、好転に望みを託し、山沿いでスタートし沖に出てリターンする20.4kmのタスクが決定。

テイクオフを控える選手がいるなか、加賀山選手が先頭を切ってテイクオフ。タイミングを見ればフライト距離を伸ばせる程度の条件は好転せず、ウインドウクローズ間際に続々とテイクオフ。その頃に風がフォローとなってしまい、数名の選手はフライトせずにタスク終了。

低いポイントで大差がつかないと判断した選手もいたが、結果はトップに100ポイント近い点数が与えられ、順位に大きく影響した。選手には積極性が求められるタスクだった。

競技後のパーティーには、市長をはじめ地域の方々も参加いただき、南砺市・地域が全力で応援してくださることを再認識。選手・役員・ボランティアスタッフ、総勢110名のビッグなパーティーに。南砺発祥の「スキヤキスチールオーケストラ」のスチールバンドが披露され、非常にのりがよいリズムで選手もダンスをしながら一緒に盛り上がった。

■10月7日(日)

海沿いにしっかりした前線があり、



TASK1はウインドウオープンとともに続々とテイクオフ。



2011年日本選手権者、阿知波選手が宣誓。



散居村を眼下にパイロットブリーフィング。



上山選手ゴール。初日ゴールは2名のみ。

近づいてくる予報。前線通過後に好転する可能性にかけテイクオフへ移動したが雨が降り出した。ウエイティングの間を利用しバスで五箇山世界遺産への観光旅行へ。その後も天候は回復せずキャンセルを発表。

■10月8日（月／祝）TASK3

昨日とは打って変わって、朝から好天。選手のテンションも上がるが、テイクオフはフォローの風。タイミングを見計らってダミーを出しても、リッジを少しなめただけ。2時間近く待つようやく前から風が入る状況になり、ダミーがサーマルで上がり始めた。

タスクは、テイクオフ後、南北のリッジを数キロ往復し、対岸のイオックススキー場方面へ行って、メインランに戻る25.3kmのレース。

スタートとともに駒を進めていく先頭集団の中には、1位・2位につけている成山、上山両選手と、川上選手、呉本選手がいる。川上選手を除く3選手は、先を急ぐ感じでイオックスを目指す。しかし、イオックスで上げ切れず、ゴールには届かず。

一方、北よりの風を意識した川上選手は、北よりの山側で上げきりわずかにフォローに乗る格好でイオックスへ。かなり高い高度でイオックスに到着し、そのままゴールへ。高度をキープしたままトップでゴールイン。

川上選手以降は、かなり高い高度でイオックスに到着するが、北よりの風が少し強まり、思ったよりも苦戦することになった。前日まで3位につけて

いた多賀選手は、ゴールシリンダー手前100mに敢え無くランディング。そして、ダークホース的に今日もゴールした森山選手が日本選手権者に輝く。

女子選手では、唯一スポーツクラスでゴールインした中目選手が逆転勝利、スポーツクラス優勝もさらった。

大会2日目・3日目の天候があまり良くなかったため、日本選手権成立に黄色信号が点灯していたが、最終日にデイクオリティー1のタスクが成立し、日本選手権として無事成立。3本とも平野部を利用する大きなタスクを組むことができ、エリアのポテンシャルを生かしたすばらしい大会となりました。

最後に、南砺市・地域の方々、つくばねエリア・獅子吼高原のフライヤー、各メーカーと多くの方々にご協力いただき大会運営が行われました。すべての方々に感謝申し上げます。

[総合]

- 1位 森山 政男
- 2位 川上 賢一
- 3位 上山 太郎
- 4位 中目みどり
- 5位 若山 朋晴
- 6位 多賀 純一

[女子]

- 1位 中目みどり
- 2位 井川 絵美
- 3位 平木 啓子

[スポーツクラス]

- 1位 中目みどり
- 2位 伊藤 和寛
- 3位 井川 絵美

日本選手権者から

□森山 政男

2012年は最高の年でした。応援していただいた皆さん、本当にありがとうございます。一番欲しかったタイトル日本選手権者になれたことは、今でも夢のようです。

私が初めて日本選手権に参加したのは2006年の朝霧で開催された時でした。色々なエリアに飛びに行ったり、積極的に大会に参加してアドバイスをもらったりしたことが良い結果につながったのだと思います。今年は更に飛躍できるように、また、先輩や若い方達に負けないように頑張りたいです。

私のホームエリアは、高知県土佐市にある高岡エリアで、普段はのんびりと飛んでいます。パラとお酒が好きなサラリーマンフライヤーです。これからもよろしくお願いします。

□中目みどり

まさか自分かと思っていたので、条件が味方した結果とはいえ嬉しいです。シリアルコンベ機が解禁された大会でスポーツクラスで入賞できたのが自信にもつながりましたが、実力がまだまだなので今後も精進します…。

初めて飛んだ南砺エリアはとても素晴らしく、パラ歴20年近くでも未だに初エリアがあるというのは嬉しい限り。普段なかなか飛びに行けないエリアに行けるのも大会の醍醐味ですね。

日本選手権開催に尽力してくださった主催者の皆様、ありがとうございます。



TASK1トップでゴールの成山選手。



逆転のTASK3。高度を上げながらスタートを待つ。



名誉大会長の田中幹夫南砺市長が挨拶。



総合トップ6。森山選手は勝者のTシャツを着て。



閉会式を終えて選手・役員が集合。おつかれさま！



女子トップ3。中目選手が逆転勝利。



スポーツクラストップ3。

年間王者決定！ 2012年ポイントシステムランキング

12月31日で2012年の競技シーズンが終了。ハンググライダー、パラグライダーとともに、1年間のリーグ戦のランキングが決定しました。それぞれの上位者は下記のとおり（数字は年間獲得ポイント）。皆さん、おめでとうございます。そして大会実行に尽力された皆さん、お疲れさまでした。

ハンググライダー

HGシリーズ

[総合]

1位	大門 浩二	2883
2位	板垣 直樹	2854
3位	太田 昇吾	2746
4位	牟田園 明	2707
5位	鈴木 由路	2634
6位	氏家 良彦	2625

[女子]

1位	野尻 千里	2089
2位	磯本 容子	2000
3位	鈴木 皓子	1814

[世界戦選抜総合]

1位	大門 浩二	311.94
----	-------	--------

2位	板垣 直樹	308.35
3位	太田 昇吾	302.20
4位	鈴木 由路	301.63
5位	外村 仁克	274.26
6位	平林 和行	273.32

[世界戦選抜女子]

1位	磯本 容子	182.52
2位	野尻 千里	144.51
3位	鈴木 皓子	124.56

2012年競技を振り返って

ハンググライダー競技委員長

板垣直樹

ハンググライダー（HG）シリーズのランキングにヒート制が導入されて3年目となった2012年、安定した強さを見せたのは大門選手だ。世界選手権選抜ランキングと合わせての堂々1位はさすが。3年続けて2位の板垣選手も盤石の安定感がある。中堅の中で一歩抜け出た感のある太田選手が3位につけ、世界戦選抜でも3位となった。

国内ランキングヒート制の象徴として光ったのが、4位の牟田園選手。以

前はスピード重視の飛びにこだわり、好成績もあったが失敗も多かった。4位という結果は、スピードにこだわりながらもミスを減らし確率を上げて実力がついてきた証だろう。

10位と健闘した馬場選手は上位で唯一の20代。ベテラン・中堅に揉まれて今後の成長が楽しみな新人だ。一方、大ベテランの外村選手の活躍も注目すべきものがあった。国内ランキングヒート制では17位ながら世界戦選抜では5位に入り、スピードはなくても大きなミスをしないベテランらしい戦いの見本となっている。

女子1位の野尻選手は、2年連続チャンピオンの磯本選手からその座を奪い初の栄誉を得た。

ヒート制導入でスピード重視の競技が白熱し、選手全体の実力が上がって来ているが、年々参加人数が減少している。週末だけの参加でも得点し易く選手の増加を見込んだヒート制導入だったが、今後も参加者増加の努力と工夫が必要だ。



East Japan Championship2012、大門選手ティクオフ。撮影：鈴木正男

今まで大会にはあまり興味のなかった人も、ハッキリと技術や実力の差が出る競技の世界をぜひ体験してください。競技委員会も常連の選手たちも大会初心者への参加を待っています。

パラグライディング

■J1リーグ

[コンペクラス総合]

1位	成山 基義	4599.6
2位	森山 政男	4197.3
3位	上山 太郎	4960.8
4位	若山 朋晴	4217.6
5位	呉本 圭樹	3817.8
6位	多賀 純一	2997.4

[コンペクラス女子]

1位	中目みどり	2706.7
2位	伊藤 弥生	2697.0
3位	井川 絵美	2561.1

[スポーツクラス総合]

1位	上山 太郎	2916.1
2位	伊藤 和寛	2895.9
3位	辻本 恵一	2877.8
4位	成山 基義	2742.9
5位	氏田 敏彦	2716.5
6位	中目みどり	2706.7

[スポーツクラス女子]

1位	中目みどり	2706.7
2位	伊藤 弥生	2697.0
3位	井川 絵美	2561.1

[国際大会選抜]

1位	呉本 圭樹	278.4
2位	上山 太郎	256.8
3位	成山 基義	250.9
4位	若山 朋晴	183.9
5位	多賀 純一	175.3
6位	伊藤 弥生	173.2

■J2リーグ

[総合]

1位	高田 征広	2738.0
2位	高橋 美佳	2566.0
3位	青木 和広	2547.0
4位	橋本みさ紀	1804.0
5位	内田 薫	1798.0
6位	田中 健	1591.0

[女子]

1位	高橋 美佳	2566.0
2位	橋本みさ紀	1804.0
3位	内田 薫	1798.0

■A(アキュラシー)リーグ

[スクラッチクラス]

1位	岡 芳樹	181.5
2位	横井 清順	152.5
3位	古賀 光晴	132.1



2012年パラグライディング日本選手権 IN 南砺、TASK3。

4位	山谷 武繁	127.1
----	-------	-------

5位	加賀山 務	123.4
----	-------	-------

6位	水野 良信	113.4
----	-------	-------

[ハンディキャップクラス]

1位	吉富 周助	150.1
----	-------	-------

2位	矢野 啓	113.4
----	------	-------

3位	矢野佐知江	105.6
----	-------	-------

4位	佐川 幸宏	83.1
----	-------	------

5位	工藤 修二	79.6
----	-------	------

6位	雨宮 有子	74.1
----	-------	------

[ルーキークラス]

1位	矢野 啓	79.6
----	------	------

2位	矢野佐知江	62.7
----	-------	------

3位	目黒 敏	58.5
----	------	------

4位	丹野慶太郎	40.5
----	-------	------

5位	雨宮 有子	39.6
----	-------	------

6位	伊藤まり子	24.6
----	-------	------

[国際選抜選手選考]

1位	岡 芳樹	299.5
----	------	-------

2位	横井 清順	255.0
----	-------	-------

3位	古賀 光晴	189.7
----	-------	-------

4位	山谷 武繁	186.6
----	-------	-------

5位	水野 良信	180.9
----	-------	-------

6位	東武 瑞穂	178.7
----	-------	-------

2012年競技を振り返って

パラグライディング競技委員長

岡 芳樹

■J1リーグ

今年度は10大会が開催されたが成立したのは僅か3大会。成立フライト本数は5本とかなり低調な年であった。7月までは、所謂シリアルコンペ機の参戦が制限されていたが、8月から解禁となり、シリアルコンペ機の飛びと安全性が注目された。加速時の飛びは明

らかにシリアルコンペ機が勝っていることが確認されたが、安全性については大会があまり成立しないこともあって十分なデータは無いが、特に危ないということも無いようだ。成立大会は少なかったが、幸いにも富山県南砺市での初めての開催だった日本選手権が成立したことは大変喜ばしい。また地元の関係者の方の素晴らしいサポートも大変ありがたいもので、この場をお借りして、感謝の意を表したい。2013年シーズンは、好天に恵まれ、思いっきりしのぎを削れるように期待したい。

■J2リーグ

今年度は5大会が開催された。2大会が成立し、5本のフライトが成立した。初めてJHFの大会を開催した舞鶴エリアは、舞鶴マジックという海の上でいくらかでも飛べる特異現象で有名な場所で、大いに期待していたが、大会時期が早過ぎた(マジックが起きるのは10月、開催は9月)ため、マジックは起こらなかった。しかも例年では北寄りの海風が昼過ぎには入ってリッジソアリングができるとのことであったが、今年の異常気象のためか、非常に風が弱く、期待外れの結果に終わってしまった。一方今年の初戦となった尾神カップでは、驚くような良いコンディションに恵まれ4本のフライトが成立した。終わってみれば、尾神の4本がデイクオリティ満点に近く、舞鶴の1本が0.1にも満たないものとなり、尾神に参戦しなかった選手はほとんど点が付かず、リーグ戦の面白みに欠ける結



2012年パラグライディング日本選手権 IN 南砺、TASK3。

果となってしまったのが残念だ。2013年度は、早めに大会スケジュールを確定し、JHFレポートで告知して、もっと多くの選手に参加して貰えるようにアピールをしてゆきたい。

■Aリーグ

今年度は7大会が開催され、全ての大会が成立している。アキュラシー大会が成立しやすいことを物語っている。しかしながら参加選手数が増えていないのが残念だ。新しい選手が増えているのだが、参加しなくなる選手もいるということだ。如何に魅力を持続させるかが課題と言える。誰でも参加でき、特別な計器（バリオやGPSなど）も必要なくノービスパイロットから参加できるので関口は広いと言えるのだが、奥が深くなかなか上達しないのが長続きしない理由かもしれない。また参加選手も開催される大会も東日本に偏っているの、西日本にもアキュラシーの風を送ることで活性化を図っていききたい。昨年初めてJ2リーグを開催した舞鶴・神崎で、今度はアキュラシーリーグ大会が開催されるので、

それを突破口にできればと期待している。

トッランカーから



■HGシリーズ

総合1位

大門浩二

少し高飛車な言い分で大変恐縮なのですが、ここ数年HGシリーズの大会に出場するにあたって全大会優勝してやろうという気持ちで挑んでいました。というのは、世界のトップレベルに挑戦するにはそれくらいの意気込みと結果を出さなければ通用しないと思っているからです。

しかしながら、国内で優勝するための飛び方と世界のトップと張り合うための飛び方には、気象条件や環境の違いから少しズレが生じてしまいます。そのせいか、ここ数年の自分の結果は前半戦の大会はいい成績を残しているのですが、後半はそのズレのためか結果が空回りしているように思えます。

けれども、2011年の世界選手権ではまるで国内の大会で競技しているかの

ような精神状態で飛んでいたもので、ここ数年の意識は少しは実を結んだのかとも思っています。

国内全体の選手の意識とレベルも向上してきていると実感できるので、これからも仲間の選手の方々と切磋琢磨して、より向上していきたいと思います。



■HGシリーズ

女子1位

野尻千里

ずっと仲間と一緒に飛んできました。いや、実際には「一緒に」なんて飛んでなかったのかもしれませんが。皆はどんどん上手くなって、世界を広げて、はるか遠くを目指しているのに、私はいつまでもここを動けずにいる。少しでも追いつきたくて、でも離れていくばかりで、飛ぶ度に泣いた時期もありました。なんで泣くの、飛ぶんだらうと自問しながら、それでも、飛ぶことをやめられませんでした。

2012年、自分で道を切り開いている感が一番強い年でした。トーイング修

行をするべく、単身フロリダに乗り込みもしました。周りの人々に助けられながら、ようやく皆の背中が見える場所にたどり着きました。気づけば、女子ランキング1位。私の挑戦は、ここからです。



■J1リーグ
コンペクラス総合1位
成山基義

2012シーズン、目標の一つだったリーグチャンピオンになることができました。

これまで、なかなか1位になれなかったのが素直に嬉しいです。特に今のジャパンリーグは水準も高く、海外でも活躍する強豪選手も多い。事実、日本選手として初めてCIVLランキングトップ10入りや、アジアチャンピオンになったのも我々ジャパンリーグの仲間です。そんな選手たちと競いあった上での1位は大きく自信に繋がりますし、もっと上手く強くなりたいと思います。

次の目標は世界選に出場し（現時点では未確定）日の丸を高く掲げることです。果てしない目標で遠い道のりですが諦めることなく挑戦していきたいと思っています。

XCパイロットになった皆さん、経験豊かな強豪選手と一緒に飛び、競う

ことは、安全にレベルアップする一番の近道です、ジャパンリーグの敷居は決して高くありません、勇気を持って是非参加してください。新しい仲間と世界が待っています。



■J1リーグ
コンペクラス女子1位
中目みどり

女子1位及び総合13位と、今までで最高位となったのは嬉しい反面、不成立の大会が多すぎ、「出たもの勝ち」で本来の順位とは言い難く、不完全燃焼感が否めないのが残念です。

シリアルコンペ機が解禁され、2013年は現在のスポーツクラスの後継機も2ライナーで出てくることも予想されるなど、スポーツクラスフライヤーとしては機体選びから悩み多き年になりそうですが、自分の技量にあった機体で楽しく参加できればと思います。

PWCでタスクビリを取ったり女子日本選手権者になったりと波が大きいので、2013年の目標は「波に乗らない」にしようかな！？



■J2リーグ
総合1位
高田征広

成立したのが2大会のみで、今年も天気に悩まされました。しかし運良く、

尾神カップのみ2日間とも好天に恵まれ、1日で2タスク、2日で4タスクも成立してしまい、参加者は皆さん楽しめようです。

J2リーグは、大会入門編とかお気楽モードで大会の雰囲気が楽しめると思います。また、J1リーグの選手と一緒に飛ぶことで、今まで経験したことのないような良い飛びができると思いますので、もっと多くの人に気軽に参加いただいて盛り上げれば良いなと思います。



■Aリーグ
スクラッチクラス1位
岡 芳樹

昨年度に続きリーグトップの座をキープできたのは大変うれしい。国内戦の3大会でトップを取ることができたのが勝因だが、各フライトのスコアはそれほど良いとは言えず、他選手の失敗に助けられた感じ。アキュラシーの技術は、グライダーコントロールにつけるのだが、なかなか上達するのが難しい種目である。地元の朝霧で、吉富選手と一緒にできる限り練習をする様にしているが、なかなかバッドを踏み続けることはできない。まだまだと実感している。2013年の世界選手権に向けより一層練習し、チームで表彰台に立てるよう努力したいと思う。

2013年は世界選手権イヤー

今年は、2年に一度のハンググライディング／パラグライディング世界選手権の年。下記の「世界一決定戦」が開催され、日本代表チームも表彰台の真ん中をめざして参加します。

◇第19回FAIハンググライディングクラス1世界選手権

1月5日～18日 オーストラリア

◇第13回FAIパラグライディング世界選手権（クロスカントリー）

7月13日～26日 ブルガリア

◇第7回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権

8月18日～25日 ボスニアヘルツェゴビナ

また、世界選手権と同じくFAIカテゴリー1のワールドエアゲームズも7月25日～8月4日にコロンビアで開催の予定です。

オーストラリアのフラットランド、フォースで1月18日まで開催中のハンググライディングクラス1世界選手権で頑張っているのは、JHFポイントシステムのハンググライディングシリーズ世界戦選抜ランキング上位の7人の選手たち（下記）。

◇日本代表チーム

チームリーダー：北野正浩

パイロット：板垣直樹 太田昇吾

鈴木由路 外村仁克
砂間隆司 氏家良彦
野尻千里

今回も有志による日本チーム応援の「ハングエイド」が行われており、代表選手の声も専用サイトで紹介されています。JHFウェブサイトからは、トップページの「Hang-Aid 2013 日本チーム応援サイト」バナーをクリックして、日本チームの健闘ぶりをご覧ください。



イタリア、モンテクッコでの第18回FAIハンググライディングクラス1世界選手権より。ゴールした太田昇吾選手。撮影：松田保子

JHFからのお知らせ

■デジタル簡易無線機の利用について

JHFは、ハンググライディングやパラグライディングで使用する無線機として、上空および陸上利用に割り当てられた351MHz帯を使用するデジタル簡易無線機の使用を推奨しています。

この種類の無線機は、電波法施行規則による簡易無線局のデジタル化および登録制度の導入に基づき使われているものです。使用に際しては登録手続きと開設届けのみが必要で、免許・資格は不要です。



デジタルなのでクリアな音質で聞き取りやすく、5チャンネル、送信出力1W、防塵・防水性を備えています。最近発表された新型（VXD450S）では、緊急アラーム機能やGPS位置情報取得に対応できる機能もあります（近日発売される予定のGPSマイク使用の場合）。

JHF事務局では、販売代理店のご厚意により借用している5台とJHF所有の10台、計15台を用意して、会員の皆様への貸し出しを受け付けています。

貸し出しをご希望の方は、JHFウェブサイトの「登録申請・各種用紙」にある「デジタル無線機貸出依頼書」をダウンロードして必要事項を記入のうえ、JHF事務局宛にお送りください。

■PG教本基礎技術DVD領布中

197号でお知らせした基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」を頒布しています。

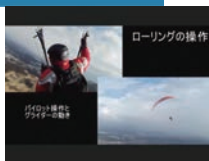
このDVDには、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしりとブレークコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

【収録されている実技】

1. 旋回 45度、90度、180度（教本32、64、65頁）
2. ピッチング（63、93頁）
3. ローリング（63、93頁）
4. リアライザーコントロール（94頁）
5. 両翼端折り（94、112頁）
6. フィギュアエイト（108頁）
7. 片翼潰し（111頁）
8. スパイラル（126頁）
9. Aストール・Bストール（126頁）

【価格・入手方法】

領布価格は1枚1,500円（送料込）で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、スクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。



■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「フライヤーサポートデスク」→「登録申請・各種用紙」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

なお、備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器（AED）

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスports専用の周波数で使う無線機（465.1875MHz）。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のた

めに貸し出し。貸出料は1,000円／台。申込条件：ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟（FAI）もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニの場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは

JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889

FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、福岡県在住の方には、各県連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

JHFレポート 200号

発行日：2013年1月15日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：日本印刷株式会社